

\*\*\*\*\*  
日本図書館協会 第39回 図書館建築賞 (資料)  
\*\*\*\*\*

〔講評〕

受賞館：板橋区立中央図書館（東京都）

板橋区立中央図書館は、板橋区平和公園に隣接し、既存樹木はなるべく伐採せずに整備された。児童エリアの前に人工芝の「みんなの広場」を設け、家族連れの図書館利用のきっかけや親近感を生み出すなど、公園と一体となった図書館づくりを行っている。

中央図書館の特長のひとつでもある「いたばしポローニヤ絵本館」は、絵本の原画展の開催がきっかけでポローニヤとの交流が始まり、事務局から寄贈された約3万冊の絵本を以前の廃校を利用した場所から中央図書館に移し、一体的に運用して活用促進を図ったものである。世界中の本と触れ合える取り組みを行っている。

館内は、上下階をつなぐ吹抜けも緩やかにズレながら繋がり、上階に行くほど静かになる音のゾーニングがうまく計画されている。公園側には、環境負荷低減のための水平ルーバーが配されている。室内から公園の緑が見えることと、日射遮蔽を両立させたためその形状は大きいですが、丸味を帯びたデザインは、柔らかな印象を創り出している。地下1階の事務室へのドライエリアからの採光確保、北側と東側の大きな壁面への水平線を基調としたデザイン、また利用者が分かりやすいよう館内サインに「ベビーカー置場」が表示されるなど、きめ細かく丁寧な図書館づくりが行われている点が評価された。図書館職員ともよく対話しながら設計が進められており、公園と一体となった中央図書館としての活動に、今後も期待したい。



▲いたばしポローニヤ絵本館は、ポローニヤ市からの寄贈本含む世界約100か国・70言語の絵本3万冊を所蔵する海外絵本の図書館である。ポローニヤ絵本館と児童エリアは隣接させ、子どもが自由に行き来して絵本を楽しむようにした。  
(板橋区立中央図書館)

